

カ ル テ

No.

@{Patient.ID}

@{Patient.ID}_@{System.SysDateJp}_@{System.SysTime24}

氏 名 @ {Patient. Name}

生年月日 @ {Patient. BirthdayJc} 性別 @ {Patient. Sex}

科 名 @ {Patient. ConsulInfoSelectedSectionName}

病棟名 @ {Patient. WardName} Dr. @ {User. RequestUserName}

日 付 @ {System. SysDateJp}

(手術・検査・処置・麻酔) 同意書

私は、次のとおり (手術・検査・**処置**・麻酔) 説明書に記された事項について、以下の者から、十分な説明を受けるとともに、質問する機会を得ました。

【説明期日、説明場所、説明者】

@ {System. SysDateJp} @ {System. SysTime24} [説明場所 : 麻酔科]

説明医師 @ {User. RequestUserName}

立会人(職種と氏名)

私は、今回の (手術・検査・**処置**・麻酔) を受けることについて、次のとおりします。

- 今回の説明により、予定されている (手術・検査・**処置**・麻酔) 及び関連する事項について理解できましたので、(手術・検査・**処置**・麻酔) に必要な医療措置が行われることに同意します。なお、このたびの (手術・検査・**処置**・麻酔) の実施中に、緊急の措置を受ける必要が生じた場合には、その措置を受けることについても同意します。
- 今回の (手術・検査・**処置**・麻酔) を受けることについては同意しません。

年 月 日

姫路赤十字病院

院長 岡田 裕之様

(患者本人 署名) _____

(家 族 署名) _____

患者との続柄 [_____]

- 同意書を提出した後でも同意を撤回することはできます。同意を撤回することによって不利益を被ることはありません。
- (手術・検査・**処置**・麻酔) にあたっては、ご家族の方がそのことを十分に理解されていることが望ましいので、ご家族の署名をお願いしています。(ご家族の範囲については、原則として、配偶者、父母、子、兄弟(姉妹)、孫、祖父母、その他同居家族とします。)
- 容態によりご本人からの了解を得ることが困難であるときは、ご家族の了解をもってこれに代えさせていただきます。(ご本人が未成年である場合は、法定代理人である親権者とします。)

*@{Patient.ID}@{System.SysDateTime}@{Patient.ConsultationInfoDeptCode}1ZRCJ

@{User.ID}*

カルテNo. @ {Patient. ID}

@ {Patient.ID} _ @ {System.SysDateJp} _ @ {System.SysTime24}

氏 名 @ {Patient. Name}

生年月日 @ {Patient.BirthdayJc} 性別 @ {Patient.Sex}

科 名 @ {Patient.ConsulInfoSelectedSectionName}

病棟名 @ {Patient.WardName} Dr. @ {User.RequestUserName}

日 付 @ {System.SysDateJp}

(手術・検査・**処置**・麻酔) 説明書

別紙がある場合はチェックをお願いします。

1. 現時点で考えられる病名及び症状

別紙あり

産痛

2. (手術・検査・**処置**・麻酔) 名とその内容

無痛分娩のための硬膜外鎮痛・脊髄くも膜下鎮痛

3. (手術・検査・**処置**・麻酔) の必要性、目的、期待し得る効果

産痛の緩和

4. (手術・検査・**処置**・麻酔) 予定日時

分娩時

5. (手術・検査・**処置**・麻酔) の責任医師名

@ {User. RequestUserName}

6. (手術・検査・**処置**・麻酔) に伴う危険性

出血、感染、神経障害、産後の頭痛など (別紙参照)

7. 麻酔使用の有無

有 [全身麻酔 ・ 腰椎麻酔 ・ 局部麻酔 ・ その他 ()]

無

8. (手術・検査・**処置**・麻酔) 後の予測及び考えられる合併症、後遺症など

出血、感染、知覚低下

9. (手術・検査・**処置**・麻酔) を行わなかった場合

痛みの継続

10. 説明に用いた補助資料 [有 ・ 無]

11. 質問と要望

12. その他

以上、今回の (手術・検査・**処置**・麻酔) についてご説明いたしました。個々の点について分からないことがあれば、どうぞ遠慮なくお尋ねください。セカンドオピニオンをご希望の方はお申し出ください。十分お考えの上、ご承諾いただきましたなら、同意書に署名をお願いいたします。

カ ル テ

No.

@{Patient. ID}

@{Patient.ID}_@{System.SysDateJp}_@{System.SysTime24}

氏 名 @ {Patient. Name}

(手術・検査・**処置**・麻酔) 説明書

生年月日 @ {Patient. BirthdayJc} 性別 @ {Patient. Sex}

科 名 @ {Patient. ConsulInfoSelectedSectionName}

病棟名 @ {Patient. WardName} Dr. @ {User.RequestUserName}

日 付 @ {System.SysDateJp}

【無痛分娩のための硬膜外鎮痛・脊髄くも膜下鎮痛】

1. 目的、内容及び結果

- ・硬膜外鎮痛・脊髄くも膜下鎮痛を単独、または併用して産痛緩和を行います。
- ・硬膜外鎮痛：脊髄神経の存在する「くも膜下腔」の外側に存在する「硬膜外腔」に細い管（カテーテル）を留置して、薬液を注入することで痛みを緩和する方法です。通常 15～30 分後に効果が現れます。カテーテルから繰り返し薬液を注入することで、長時間の鎮痛効果が得られます。
- ・脊髄くも膜下鎮痛：脊髄神経の存在する「くも膜下腔」に細い針を穿刺して、少量の薬液を注入することで痛みを緩和する方法です。下半身以下の手術時に実施される腰椎麻酔と同様の処置です。硬膜外鎮痛より速やかな効果が得られますが、鎮痛持続時間は 1～2 時間です。
- ・分娩の全行程を通して全く痛みがないわけではありません。分娩の進行により痛みの程度や場所が変化するため、薬剤の濃度や投与量を調整します。鎮痛効果が不十分な場合にはカテーテルの入れ替えを必要とする場合があります。
- ・陣痛発来後、産痛緩和を希望されたタイミングで処置を行います。分娩進行が速い場合には鎮痛効果が間に合わない可能性があります。分娩終了後は翌日までにカテーテルを抜去します。
- ・薬液注入中は血管拡張作用による血圧低下、下肢のしびれや筋力低下、排尿障害が起きる可能性があります。坐位や立位、歩行時に意識消失や転倒の危険があるので注意してください。排尿障害に対しては必要時に導尿します。そのほか、かゆみ、発熱、背中痛みがよくみられます。
- ・無痛分娩により分娩時間が延長し、吸引分娩率も上昇すると報告されています。
- ・分娩方法（計画分娩・自然分娩）の選択により分娩経過が大きく異なる場合がありますので、産婦人科の先生と相談して決定します。

手順

- ・処置中の嘔吐・誤嚥予防のため、無痛分娩を予定している場合は絶食の必要があります。お茶やスポーツドリンクなどの水分は摂取できません。
- ・処置前に点滴をとり、血圧や脈拍を定期的に測定します。
- ・背中を丸めた姿勢で消毒、局所麻酔を行った後、針を穿刺します。脊髄くも膜下鎮痛では引き続き薬液を投与します。硬膜外鎮痛ではカテーテルを挿入して薬液を投与します。
- ・穿刺処置中は、体動により神経損傷や予期せぬ硬膜穿刺がおこる可能性があります。陣痛の痛みが生じたときは麻酔科医に知らせてください。

2. 予想される危険性、および合併症

- ・ 穿刺針や血腫発生、局所麻酔薬等による神経障害（しびれ・違和感・痛み・麻痺など）
- ・ 穿刺部の皮膚、皮下の感染、硬膜外膿瘍
- ・ 硬膜穿刺後の頑固な頭痛、めまい、悪心
- ・ 胎児心拍異常（急速な疼痛緩和時の子宮筋過収縮が原因）
- ・ 局所麻酔薬によるアレルギーや中毒症状（耳鳴り、口唇のしびれ、舌の違和感、痙攣、不整脈）
- ・ カテーテルの位置異常による全脊椎麻酔（意識消失、呼吸停止）

3. 無痛分娩を実施できない場合

- ・ 血が止まりにくい（血小板減少、血液凝固異常、内服薬の影響）→ 血腫による神経障害
- ・ 感染の疑い（発熱、炎症反応上昇）→ 硬膜外腔・くも膜下腔への感染の波及
- ・ 脊椎・脊髄疾患、脊椎の手術後 → 穿刺困難・効果不十分・神経損傷
- ・ 早産、低出生体重など胎児の未熟性→ 吸引・圧出分娩時の外傷
- ・ 心拍異常など胎児の状態不良 → 子宮筋過収縮・分娩時間延長による低酸素状態の重症化
- ・ 夜間休日など→ スタッフの充実度不足による安全性の低下

4. 合併症を生じた場合の処置について

- ・ 硬膜穿刺後の頭痛に関しては、基本的には安静と水分摂取で経過をみますが、症状が重い場合、硬膜外腔に生理食塩水や自己血を注入する処置を行います。
- ・ 硬膜外膿瘍や血腫発生時には緊急手術が必要となることがあります。
- ・ 局所麻酔薬によるアレルギーや中毒症状、全脊椎麻酔などが生じた場合は必要に合わせて気道確保や投薬治療を行います。

5. 費用

- ・ 硬膜外鎮痛（+脊髄くも膜下鎮痛） 15 万円
- ・ 脊髄くも膜下鎮痛のみ 7.5 万円
- ・ 硬膜外鎮痛（+脊髄くも膜下麻酔）を開始したが、帝王切開となった場合 12 万円

6. その他

- ・ 当日担当する麻酔科医師は説明を行った医師とは異なる場合があります。
- ・ 麻酔方法のデータを、日本麻酔科学会が行っている偶発症調査などのデータとして、個人情報には十分に留意し、使用させていただきます。
- ・ 麻酔記録や分娩経過を、個人情報には十分に留意しつつ、医学の向上目的に学術集会や学術誌へ報告させていただくことがあります。
- ・ 不安に思われること、疑問に感じるがありましたら遠慮なくご質問ください。